

第 26 回

日本ミャンマー豊友会

ミャンマースタディーツアー参加報告

2017年10月24日～10月29日

杉山貴浩

今回はミャンマーへ行かせていただきありがとうございました。

今回のミャンマーへの訪問は2回目となります。11年前の最初の訪問時にまとめたレポートもあるのでそちらも参考にしてください。

今回の訪問は、日本ミャンマー豊友会の支援で建設された保育園の開所式がメインイベントです。私にとっては2回目の訪問という事でミャンマーの発展状況を肌で感じたいと思い参加させていただきました。

## 1日目

ほぼ移動のみ。セントレアからベトナムハノイ空港で乗り継いでミャンマーのヤンゴン空港へ。ヤンゴン空港は前回訪問時の翌年に国際ターミナルが開業しており、新しく近代的な空港に様変わりしていた。利用者も多く、ヤンゴンで合流する人を探すのに苦労した。「三菱」「日立」など日本企業のプラカードを持った出迎えの人たちの中に「第26回スタディーツアー」とかかれたプラカードを持った現地ガイドさんを見つけるのには苦労した。

空港にいる限り後進国とは感じない。ケンタッキーフライドチキンの店もあるスマホを使っている人も多い。ロンジーと呼ばれるスカート状の民族衣装を着用した人に気づいたことでやっとミャンマーに来たなという実感がわいてきた。

前日入りした人や成田から来た人たちと合流し結団式の食事会を終えてホテルへ向かう。今は日本人の訪問者も多くレストランもホテルもきれいなところが増えている。

関心事としてはロヒンギャ問題。日本でも報道されているが、ミャンマーの人たちからは彼らは乱暴な人たちとみられていて、あまり同情の対象にはなっていないようだ。

ロヒンギャ問題のラカイン州は今回の訪問先とは遠く離れており、影響の心配は必要ないとの事だった。

## 2日目

ヤンゴン空港からヘーホー空港へ。バスで訪れる先はシャン州パオ族の住むニャンピン村。ミャンマーの農村では幼い子を持つ両親も畑に出かけなくてはいけないため、子供もつれていく。すると川に落ちたり蛇にかまれたりして事故に遭い命を落とすケースも多い。

そこで保育園が切望されている。低い年収を出し合って校舎を建てるのは難しいため、日本ミャンマー豊友会が校舎建築に使う材料費の85%を支援するという活動を続けている。

今回で12件目との事だった。なぜ85%かというと、建物が建ったあと、運営が可能なそれなりの財力を持っていることが条件だから。皆がお金を出し合って保母さんを雇い、子供たちの預かってもらうのだそうだ。今回資金を提供されたのはキャブ株式会社の辻社長。辻社長は丸和の朝礼の話でも度々登場する尊敬する経営者の一人。今回は娘さんと訪問しており、長い時間を一緒に過ごすことで辻社長から何かを学び取りたいという事も私の今回の旅の目的のひとつとなっていた。

目的地に到着すると写真にも収まりきれない想像以上の人数の村人が出迎えて下さった。500人は下らないと思う。少数民族であるパオ族は頭に布を巻くがタオルを巻いている人もいる。新築の保育園の前にはプレゼントされたこいのぼり(日本の家庭で使われなくなったもの)がかかげられ、泳ぎ出す姿に子供たちの表情は笑顔に変わっていった。



辻社長のテープカット

今回の訪問団にはピアノの調律師学校の理事長と先生、アメリカ人の英会話のマイク先生が参加しており、各家庭で眠っていたピアノの贈呈と公開英会話授業も行われた。

調律師の木村先生がピアノでミャンマー国歌とミャンマーでも知られている北国の春を演奏すると歌い始める人もいた。木村先生はミャンマーの人たちに喜んでもらおうとミャンマー国歌の演奏の練習をされていたそうで素晴らしいと感じた。英会話は子供たちに大盛況でこの国の子供たちは素直に先生にならって英語の発音をしていた。子供たちの目が輝いていたのが印象的だった。

私事ながら、ピアノ調律を学んだ友人がおり、もしやと思って木村先生に聞いてみたところ、先生の教え子であることが判明。世間は狭い。

3日目はタウンジーというシャン州最大の町へ。シャン州の各地域から集まったパオ族の教師の卵たちが学ぶ学校を訪問。この学校の校舎は質素で、タウンジーに住む若者なら通うのは躊躇する施設だが、シャン州の各地方から17歳前後の若者が学びに来る。

ピアノと英会話授業のプレゼントに加え、ミャンマー語に設定された中古パソコンが寄贈された。ピアノは電気が無くても演奏できるので学校でオルガン代わりの楽器にしてもらおうという狙いがある。



ホテルへの帰りにはバスからボートに乗り換えて、珍しい湖上生活が営まれているインレー湖インダー族の地域を見学した。水上は所有権が無いいため家を自由に建てられるらしい。水上にトマトの浮き畑があり貴重な換金作物となっている。

#### 4日目

飛行機でヤンゴンへ戻り、以前寄贈した140台のピアノのある学校へ。今回も木村先生がピアノの使い方のレッスンを実施。

過去に寄贈したものがきちんと活用されているか確認することもツアーの目的になっており、行われている支援が適切かどうかのチェックになっている。



## お寺が管理するトンテ孤児院

孤児や親が何らかの事情で育てることができない子供たち。800 人の子供たちがここで暮らしている。



食事風景。おかず一皿とごはん。ご飯はおかわりができる。

ここでも音楽演奏&ピアノカ寄贈や英語教室のプレゼントだけでなくお金や衣類、紙芝居、サッカーボール、ギター、お菓子などを寄贈した。一人くっ

いて離れない4歳くらいの甘えん坊の子供がいた。子供に渡すためにミルクを持って行ったが全く足りず。孤児院に行く聞いていて日本の孤児院を連想し3袋用意して行った。行儀よく一列に並んだ子供たちにひとつずつ渡していったがすぐになくなってしまった。同行者の中に昨年10月からこの孤児院で洋裁教室を試みた方があったが、結果としては失敗に終わってしまったそうだ。孤児院の方針として全ての子供は大学を目指すように指導されており、勉強をさせたいのでミシンの指導に時間を割くことはできないと拒否されてしまったらしい。

大学に合格できず行き場に困る子供もいるらしく、本当はそういう子に手に職をつけると良いが、お寺の方針には逆らうことができない。寄贈したミシンもほこりをかぶっているとその方は残念がってみえた。支援とはいっても、相手が受け入れられることなのかどうかとも大切なのだと痛感した。この孤児院で受け入れられなかった洋裁指導は、ミャンマーで医療支援活動をされている吉岡先生(11年前のレポート参照)が運営する別の孤児院で受け入れられるかもしれないとの事で、新たな方向性での活躍が期待される。

## 5日目

たまたま行われていたヤンゴン市内の「世界おまわりさんパレード」の様子。ミャンマー、ベトナム、シンガポール、日本の警察音楽隊が大通りをパレードしていった。今の日本のミャンマー大使は元警視総監でその縁でパレードが実現しているとの事。大変な人ばかりで人気のある日本の音楽隊が来ると近くで見ようと前に出てくる人がたくさんいた。







11年前も訪問したヤンゴンの中心部にある寺院 シュエダゴンパゴダ

2500年前に建てられたとされるが地震で何度か破壊されており、今の仏塔は15世紀ごろ作られたと考えられている。ミャンマー人は敬虔な仏教徒が多く、輪廻転生を信じる人が多い。よりよい来世を迎えられるように寄進する人も多く、大変豪華な建物が多い。ここ以外の寺院でも同様の事が言える。自分が生まれた曜日にあわせて参拝する場所が決まっている。

小乗仏教の人は生涯で1度は僧侶にならないといけないことになっている。最低3日間らしい。



ミャンマーの自動車事情。中国の新車も売られているが中古の日本車が圧倒的に人気がある。今年から右ハンドルの中古車の輸入が規制されており今後この状況に変化が予想される。11年前は20年落ちじゃないかというくらい古い車ばかりだったが新しい車が増えた。日本の車検証がつけばなしの車も多く、去年日本で車検切れしている車を何台も見つめた。プロボックスやサクシードは非常に多い。マークXのタクシーも見かけた。そんな中で、プリウスをはじめとするハイブリッドカーは1台も見なかったのが意外だった。ネットではミャンマーではHV車も人気があると書いてあったが実情は違うようだ。聞けば、HV車は税金が高くて整備できるところが限られてしまうとのことだった。ミャンマーでは電気自動車どころか、ハイブリッド車もまだずっと先の話になるのかもしれない。旅行中中国製のバスにも乗ったがやはり日本車の方が乗り心地が良い。

所々で道路の拡張工事をしている光景を見たとし、建築中の建物も多かった。保育園を建てた村にも電気は来ていたし、インフラ整備は急速に進みつつある。

海外への出稼ぎはタイや中国に行く人が多い。現地のガイドさんによれば中国の影響力が強いが人気のある国は日本だそうだ。

製造業は衣料品や木材加工などの製造業が盛んだが自動車機械関連の工場は見かけなかった。



市場。果物や鶏などが売られている中、写真にあるようにスマホカバーが売られている。昔は携帯電話もあまり普及していなかったがスマホは急速に普及している。収入は1日 4000 チャット(340 円位) 専門性のある仕事なら 10000~15000 チャットもらえるものもある。

食事など ミャンマーの料理はタイ料理に似ている。ピーナツオイルを多用するので脂っこいものが多い。訪問先では衛生的な店を選んでいただいたが水道水には注意が必要でコップに入っている氷とか、サラダでも野菜を洗う水が水道水だとおなかを壊すこともある。同行者の方も1人体調を崩されていた。主催者の近藤さんは「いざという時のために大人用おむつも用意してあります」とおっしゃっていたが本当に必要になることもあるようだ。歯磨きもミネラルウォーターでしてくださいと言われた。ビールは「ミャンマービール」が昔から美味しく有名。11年前は無かったと思うが今回コカ・コーラやポカリスエットを見かけた。

## 感想

前回ミャンマーを訪れた時、インフラや法律制度が整っている日本がありがたいと思いました。そして今、ミャンマーではそれが整いつつあります。豊かさと貧困が隣り合わせに存在していて、変化の過渡期にあります。豊かになりつつはあるけれど、貧しい人たちは相変わらず貧しい。子供の表情を見ていると貧しいことは不便だが必ずしも不幸ではないと感じます。しかし間接的に貧困のせいで命を落とす子もいるので、支援を通してそういったことが減り、教育の機会を得てミャンマーの発展のために働く人が増えればと思います。11年前に私が参加した訪問は第2回目でした。当時訪問先で「日本のグループが何度か支援して下さっても、しばらくすると音信不通になるケースが多い」という話を聞き、私たちのグループもそうなりはしないだろうかと心配したこともありましたが、10年以上活動が続いており、内容も進化しています。昔は金銭的な援助のみでしたが、保育園建築の支援に中古パソコンやピアノ、英会話授業など、主催者である近藤さんの継続力と人脈を切り開いて活かしていく力には心から敬服します。

テレビやインターネットを通して海外の様子を知ることができますが、エアコンの効いた部屋でお茶を飲みながら画面を見ているとどうしてもよそ事のような感覚があります。温度やにおいも感じられる現地に行って初めて、同じ地球上で営まれていることだと実感することができます。

今回のミャンマー訪問をきっかけに日本が戦後、海外からどのような支援を受けて復興を遂げたのかという事を調べてみましたが、ダムや新幹線、高速道路も海外からの融資で作られたのだそうです。私たちの支援はささやかなものではありますが、こういった恩を次の国に返していくことでその国が富み、さらに次の国へ恩送りされていけば素晴らしいなと思います。ありがとうございました。

060918 日～23 日 ミャンマー行き 豊友会

見聞した内容の記録です。

※聞き間違いや、教えてくれた人の主観が入っている可能性もあるのでそのつもりでご覧下さい。

【道中に聞いたミャンマーの情報】

ミャンマー人口 5000 万人  
ヤンゴン 600 万人の都市 マンダレー 400 万人

首都

1885 年までマンダレー

1885～1947 まで英国植民地 戦後また英国が来た  
が独立を勝ち取った。

2005 年までヤンゴン(ラングーン)

2006 年よりピンマナ(ヤンゴンから北へ 300 キロ)  
都市は北・東に発展していく傾向がある。

ピンマナへの遷都は謎。

ミャンマーの中部に位置するためミャンマーの発展  
に向くと判断とされているが、  
一説にはヤンゴンは海に近い  
ためアメリカに攻められた時

海からの砲撃ですぐ落とされて  
しまうという懸念からとの  
考え

古い遺跡から国の中央に首都を  
置くと栄えるという  
記述が見つかった

電力の安定供給の問題

遷都後ヤンゴンでのテロは  
静まっている。

デートはお寺

山田さん「不憫な国 正直すぎて  
損している。世界中の人が  
こんな人たちなら平和だろう  
なという国」

怒ることはみっともないこと  
だという国

古い日本の車がたくさん走  
っている。

車に乗っているエンジンは  
他の車のものだったりする。

ターコイズ ルビー サファイア  
ヒスイ ペリドット シルバー  
の産地

ハイウェイにはお金をかけて  
いる 80km くらいで走れる

独立の父アウンサン将軍は  
日本の大学を出ている  
最近ではアウンサン将軍を  
知らない子供も増えてきた。

ミャンマー人は親日派が多い

早朝 空港への移動中 お坊  
さんやジョギングする人の  
姿がたくさん見られた

テレビ カネボウテスィモの  
日本のCMがそのまま流れて  
いた

ミャンマーは 135 の民族が  
いる

ビルマ民族の住む地域は  
県 他民族の住む地域は州

とされている

07 年からはビザなしになる

ミャンマー⇄中国は無税

国境はタイと一番多く接  
している

今は日本の中古車の輸入が  
規制されているが、日本車  
の人気の高い。中国車は人  
気がない

バイクはホンダが人気。中  
国のバイクもそこそこ流通  
している

お坊さんはバスは無料。

有料道路自転車とバイクは  
無料

ヤンゴンはバイク規制があ  
る。軍のバイクしか走れな  
い。

よく停電する。

ミャンマーのマンゴーは世  
界的にも最高級。三越でも  
売られていた

ミャンマーの土地所有権に  
ついて

代々の土地はその人のもの  
、99 年リースの土地、15  
年リースの土地

経済制裁で海外からのミ  
ャンマーへの投資ができな  
いが、人の出入りは規制な  
し

雨でも傘をささない人が  
多い。

野良犬が多い。猫はあまり  
見ない(孤児院で 1 匹だけ  
見た)

水牛・馬・牛などの家畜も  
道中多く見られた。

自動車人身事故は問答無  
用で運転手が悪い。死亡事  
故なら 7 年刑務所。

雨宿りの時どうぞどうぞと  
いすを差し出してくれた。  
民間の有料道路もある。

ミャンマーの人の価値観は  
どんな仕事をしているか  
ではなく、仕事があるか無  
いかの価値観。

10 人家族で一人だけ働い  
ていると言うこともある。

全国に 120 万人のお坊さん  
がいる。

ミャンマーは全世界仏教  
会議が開かれる所。

狂犬病に注意が必要

兵隊は志願制

ネット・メール 検閲があ  
る。政治的なやり取りが  
ないか。

写真を添付すると容量が  
大きすぎて詰まってしまう



【お世話になった方】

チョウソウさん  
ウィンミンさん  
ダジュンさん  
スーさん



【マンダレー空港】

マンダレー空港の飛行機から空港建物までの移動バスは、6台見かけたうち5台は名古屋市交通局のバスのお下がりだった。おなじみのデザインのバスが飛行機と建物の間を行ったり来たりする様子は実にシュールな光景だった。

ミャンマービールは外国人にも評判のビール 世界のコンクールでも受賞したこともある。



【ネルソン氏のセメント工場】

商工会議所会長 工業団地団長

国内で使われる 25%のセメントを製造。似たような工場は国内で他に2箇所ある。セメントは輸入にも頼っている。

セメントの需要は非常に高い。先にお金をくれるくらい供給が不足している。

山の掘り出し工夫 1トンいくら

検査の女の子 大学卒 入りたてで月 60\$ 休みはほとんどなし

工場内の作業員 一日安くて 1.5ドル

ネルソン氏 商売は茶畑から始めた。

1994年からセメント工場。 1トン80ドルで売れる。

タイ・中国・韓国・インドの技術指導を受けた。

年商12億円のうち7億がセメント事業

パイプライン・道路・ダム・橋 あらゆるところでセメントがいる 学校・病院

品質が問われるので、政府が簡単に認可しない。

セメントは保存すると品質が落ちてくるので在庫のないように作っている。

ネルソン氏が語るミャンマー人の姿

ミャンマー人は我慢強く仲間意識が強い。欲が少ない

ミャンマーに株式上場はない。ネルソン氏はシンガポールでやっている



### 【チーク木材工場】

ネルソン氏の長男 チョウソウさんの同級生の経営  
イタリア・フランス・タイ・日本（大手ホームセンター）向け  
8割が輸出 2割が国内  
フローリングや家具（ダイニングテーブル・イスなど）の製造



### 【サガイン 吉岡先生の病院】

ジャパンハート代表

海を越える看護団 日本代表

（9月1日にジャパンハートの看護部門を閉鎖して新たにつくった看護師を中心とした国際医療組織）

お金がなくて治療が受けられない人たちのための病院

お寺の経営する病院を間借りする形で治療している。もとは尼さんやお坊さんのための病院から始まった。テナントのような形。オーナー側の病院と吉岡先生の病院が同じ建物にある。

奥さんは大阪で小児科医をしていて資金を送ってくれている。吉岡先生は持ち出しで治療をしている。

戦争のとき日本兵はミャンマーの方々に大変助けられた。家にかくまったり食べ物を与えたり。

ミャンマー滞在中に遺品を預けられたこともある。

そういう事実を知り、何か返せるものはないかと思った。

恩返しは誰がやってもいいこと。幸いにして自分は医者だった。

年千件近くの手術をしている。

組織のことお金のこと人を集めること。やらなきゃいけないことがある。

支援は話し合って納得していただける方に支援していただいている。

ある中学生から手紙があった。「いくらあればどれくらいの人命が助かりますか」

お金の額ではなくて、人を助けるというお金に善意がのっていることが重要だと自分は考えている。

本当はすべて無料で治療したいが、他のミャンマー人の病院も周りがあるので、患者をとり過ぎないようにしないといけない。

経営のため病院を運営しているお寺もなるべく高くお金をとりたい。

無料も問題がある。お金がある人も来てしまう事。

患者がどれくらい払えるのかの判断が非常に難しい。入院中食べているものとか（病院からは食事は出していない）をみて判断している。

全国から患者が来る。ヤンゴンからも。

治療費はどんな手術をしたかではなく盲腸はいくら、この病気はいくらという考え方で決まる。

専門性の高いことはできない。日本と同じことはできない。ミャンマーの基本的器具を使ってやれることをやる。

日本の医師が当然のようにやっている、「これしか診ない」ということはやらない。医師であるということ自体がスペシャリティだと考えている。看護師は必要に迫られて2～3ヶ月でミャンマー語をおぼえてしまう。看護師はありとあらゆる事をやる。日本では禁止されている治療もやっている。

外国人であるために手に入りにくい薬もある。できることをやる。できないときは他の病院へ送っている。

いろんな病気の人がいる。自分はもともと外科医なので、外科の患者が多い。外科が得意と言うこともロコミで伝わっている。

国内に医者や看護師の数は少なく、村の医療は看護師や一年だけ研修を受けた人、伝統医療の役割になっている。

ここで治療できないものは紹介状を書くが、癌とかはお金がかかるのを知っているので、紹介状を書いても患者は行かない。行けない。

こういう場合2つしか選択肢はない。最後まで診るか、最初から診ないか。

お金が続かなくなって途中で治療をやめてしまうなら、最初から行かないほうがいい。

紹介状は書く。すべての人は救えない。心が動いて自分が資金を援助して治療する人も中にはいる。

ミャンマーの大病院の医者は大変威張っている。部屋にただで1000円取る。月収100万円以上ある医者をたくさん知っている。

ひとつの病院に医者は長くない。転々とする。政府の保険に対する予算は少ない。インフラ整備などのほうが優先されている。

形はともかく患者と自分と一対一の繰り返し。1000人やってやろうではなくて、一対一の繰り返し。

家族の気持ちとかを考えて一人一人に向き合っていくことを貫いていきたい。

組織運営上の立場。自分が診るのではなくて、日本にいる人でミャンマーで働きたい人がいっぱいいる。

後ろに続いている。

支援は病院建てたりすることが多い。続きたい人のために道を開きたい。

はじめは一人でやっていけばそれでよかったが、続きたい人が出てきたのでその人たちに道をひらきたい。

サポートは東京大阪に事務所がある。

ヤンゴンからバンコクへの帰りの飛行機で、吉岡先生の病院にいたお二方が偶然一緒だった。

一週間の海外研修としてみえていた。

ミャンマーに親戚がみえる。

日本で預かった寄付の品々と5万円を寄付させていただきました。

#### 【クドードオ仏塔】

仏塔が750位有る 一つ一つの石版にお釈迦様の言葉が書いてある。



#### 【織物工場見学】

「ヒラノセイサクジョ」製の古い織機が稼働していた。

12年選手の熟練者新人を育成しながら2m織るのに1ヶ月かかる。2mで10\$≒1ヶ月 出来高制



#### 【お坊さんの大学】

お坊さんの食事風景

たくさんのお坊さんが列をなしてご飯をもらいに来る。



肉も食べて良い。いろんなおかずが混ざったものを食べる。  
量は多い。ご飯も一人茶碗3杯分くらい配られていた。  
5時と11時の2回食事がある。12時を過ぎたらものを食べることはできない。  
お坊さん見習いの子供もいる。  
欲を捨てるので おいしいはずは言わない。  
外国人の観光客が大勢いた。

#### 【金箔工場】

24gの金から3600枚の金箔を作っている  
1日の日当は3000~4000チャット

#### 【偶然一緒になったお坊さん】

「ディーターク」という高名なお坊さんが飛行機と宿で一緒だった  
ミャンマー人はみんな知っている、ミャンマーで5本の指に入るお坊さんらしい。恐れ多くて写真には撮らず。



#### 【バガン】遺跡

11世紀に作られた門1箇所だけ残っている。世界遺産にはなっていない。  
仏塔などの遺跡がそこかしこにある。へたな世界遺産もかすんで見えるくらいの素晴らしい眺め。



#### 【バガンの宿で聞いたお話】

インパール作戦が考えられたとき、ビルマ人が偵察に行った。無数の英米兵が待ち受けている状態で、この作戦はやめた方が良くと言進言したが、聞き入れられなかった。  
この作戦の目的は敵の補給路を断つことだったが、それはもっとビルマ側の都市で待ち伏せして補給を断れば問題なかった。  
相手の送ったおとり部隊に快勝し、調子づいてそのまま進撃してしまった。エサに食いついてしまった。

戦後、日本軍2万がインドネシアに残って独立のために戦った。その時ビルマからは8万の兵を送っていた。  
戦後ビルマに日本兵が残ったという話はほとんど聞いたことがない。

ミャンマー人はタイ人と仲が良くない。タイ人は言うこととやることが違う事が多い。  
インドネシアはタイと違って人柄以前の問題。命が危険。タクシーに乗ると殺されることがある。レストランの後タクシーに乗ると、殺されないように店員が同乗してくれる事もある。イスラム教国だからなのか簡単に人を殺してしまう。  
ラオスは仲が良い

ウィンミンさんは昔農林大臣だった。

ケシの花をソバに替える活動。渡辺美智夫がはじめさせた。ソバができたとき、凄く喜んで自宅で自分の手でソバを打って祝った。ソバがあまりがちになると蕎麦焼酎づくりをさせた。

(滞在中のホテルで麻薬撲滅のCMを見た。末期の麻薬中毒者のショッキングな映像が流れていた。アイドルが麻薬は止めましょうと呼びかけるだけの日本のCMとは違う。かなり深刻な問題のようだ)

ビルマの王は世襲制ではなく優れた人が継ぐという制度

遺跡の場所には舗装させて貰えない。遺跡が壊れてしまうから

バイオディーゼルの燃料になる木の栽培 1 ガロン 20 ドルになる。国策として行われている。

2500 年前仏教が伝わったのでミャンマーの暦は 2500 年のはずだが、昔の王がより古い時代の王であったことにしようとして暦を巻き戻した。そういうことが何回も行われた。

今は 1369 年になっている。



#### 【鎮魂碑】

戦争で命を落とした日本兵の鎮魂碑。ミャンマー人の手によって多くの遺体が埋められた。

シャツを脱がせシャツの持ち主を埋めた場所の地図を書いておいたのでどの骨が誰のものか分かるケースが多かった。

バガンからヤンゴンに戻り、最後の夕食会。一人一人が感想とお礼の言葉をのべた。

日本人の経営する遊園地。



#### 【孤児院兼学校】

120 人の子供達がいる

住んでいる子、自宅に帰る子（すべての生徒が孤児というわけではない）

中学 5 年まではここで学ぶ。それ以上はここから通う。

1 歳 8 ヶ月の時に入った子が今までで一番小さい子。今は中学 5 年生になっている。

ミャンマー民族は少ない。

近所の人「あの子は親がないから面倒を見てあげて」と知らせてくる場合や、お坊さんが山に行ったときに見つけて連れてくる場合などがある。

今の人数が精一杯。入りたい子供はまだまだいるが、今いる子の面倒も見なければならず断っている状態。

親のいない子、事情があって親と別れた子、遠い地域から勉強のために来る子もいる。

尼さんの道を選ぶ子もいる。

運営費はミャンマー・日本・マレーシア・子供の親族からの援助。日本からが多く、建物も日本の援助。

1 日 3 食食べさせている。お米代は月に 40 万チャット(約 40 万円)



寄付が途絶えて音信不通になることもある。電話はあるが通じにくい。  
学費・交通費は1日4万チャットかかる(約4万円)  
自分の誕生日も知らない子がいっぱいいる。

男の子は10~13歳で他の所に行く。ここは女の子がメイン。(恋愛問題を避けるため)  
里親制度はない。悪用して人身売買する人がいるため。  
医者は近くにいない。何かあったらお金を払って呼ぶしかない。山から来た子も腎臓に病気を持っている  
訪問者から1万円ずつ 13万円を寄付させていただきました。



【ウィンミンさんのチーク製材工場】  
イタリア製の乾燥炉 かなりのお金をかけている。  
出荷先は日本が主 フローリングを製造している



行った中では一番庶民的な食堂。清潔で味も良い人気の店とのこと。旅行の間中日本人の胃腸の弱さを気遣っていただいた。



ヤンゴン最大の聖地、シュエダゴン・パゴダ。巨大な建築物と仏像が所狭しと建ち並ぶ。  
日本の仏教と違い、明るいイメージがある。にこやかな仏像も多い。

この度はミャンマーの視察旅行に参加させていただきありがとうございました。  
参加するきっかけは社長の予定が飛翔会の予定と重なっていたため代理で行くと言うことでしたが、このような機会を頂いたことに大変感謝しています。  
志あるお医者さんとの出会いや、戦時中我々の先輩がこの地の人たちに大変お世話になったこと。  
貧乏で気の毒な国を訪れる気持ちで参加しましたが、そこには世界に誇れる文化と歴史があり、  
素朴で素直に生きる人の姿がありました。幸福度という観点で見れば、日本人よりミャンマーの人たちの方が

幸せに暮らしているのかも知れません。

また、日本は色々問題点ばかり指摘されますが、ここまで豊かな国になったのは、先人が道路や電気・水道などのインフラを整え、法律や制度を整備して、また一人一人が一生懸命働いて築かれたものだということも強く感じました。ミャンマーでは戸籍さえハッキリしない事も多いようです。日本で当たり前、会社で当たり前と思われていることでも、そのために汗を流した人がいたということは、おぼえておかなければならないと思いました。

帰りの飛行機で偶然にも吉岡先生のもとで働いていた医師の方と一緒にあったり、ミャンマーを代表するお坊さんと飛行機や宿で一緒であったり、また参加者の方の知り合いの方がお世話になった方も共通の知り合いであることがわかったりと、不思議なご縁のある旅でした。本当にありがとうございました。